

奨励賞

1 行きの建カ
2 百建、建カ
3 百建、建カ
4 100建



設計担当者

赤松佳珠子

東京建築士会、(株)シーラクスアンドアソシエイツ



赤松 (写真: Takahashi studio)

岸 尚志

東京建築士会、パンフィックコンサルタンツ(株)

駅舎、連絡通路/広島県広島市中区西白島町

アストラムライン新白島駅

構造 | 鉄骨造

階数 | 地上1階・地下1階

敷地面積 | 3,913.13㎡

建築面積 | 1,723.38㎡

延べ面積 | 2,478.69㎡

竣工 | 平成27年3月27日

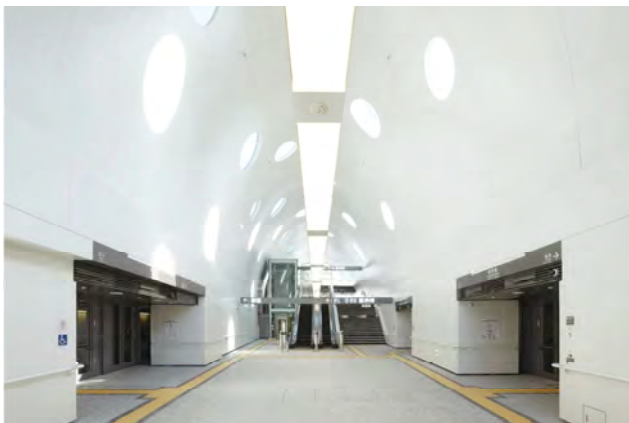


1

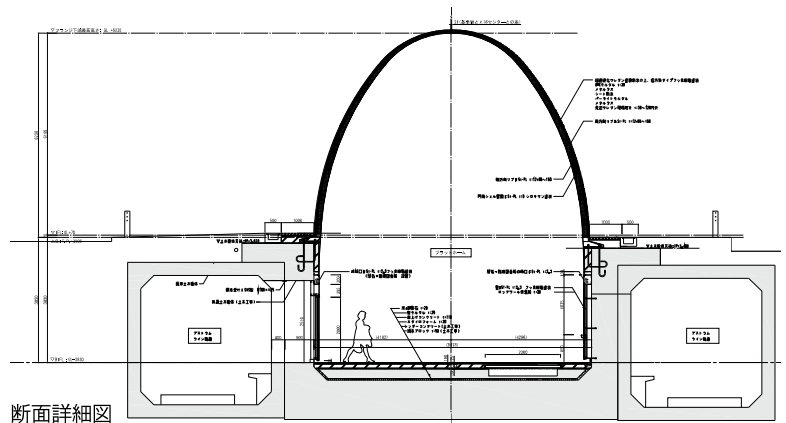


2

1 外観 2 連絡通路
3 プラットホーム
写真1~3...Sadao Hotta



3



断面詳細図

選評

アストラムライン新白島駅にアプローチして行くと片側3車線の国道の上下車道に挟まれて、子どもたちがジブリアニメのオームのようだというユーモラスな姿が見えてくる。

この駅は、アストラムラインと山陽本線の交差するところに新設したもので、国道の中洲のもつ敷地の線形と、JR高架下から地上走行になるアストラムラインの地下軌道が地上付近に浮上してくるところでJRの高架駅から乗り換えるとい

う立地条件をうまく造形に昇華している。

25年前に将来の駅新設に備えて駅のプラットフォームの間隔をとって埋設された地下鉄軌道のボックスカルバートの間を掘削し、そこにU字型土木構造体を嵌め込み、土圧を受け止めるとともにU字型構造体の底を駅のプラットフォームとしている。その上に9mm厚のリブ付き鋼板の外部側に防水とモルタルを施した厚さ105~200mmの薄い円筒シェルを掛け

渡している。

地下の土木構造体の厚みと重量感を車両に乗り込むためにあけた横穴の断面に見取り、頭上の軽やかなシェルとそこに穿った円形の天窓から注ぐ自然光を見上げると、この建築の面白さは土木的構造体の上に建築的造形スケールを対比的に際立たせている点にあることを実感する。土木と建築の滑らかな接点に計画の困難さが凝縮されている。(菅 順二)